

## 仙台市博物館協議会(令和2年度第1回)会議録

1. 会議の年月日 令和2年7月28日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時から午後4時30分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

跡部薫、尾崎彰宏、佐川正敏、佐治ゆかり、佐藤憲子、高橋綾子、伊達泰宗、長岡龍作、森美智子  
※佐治委員、高橋委員は新任。

4. 説明者の職及び氏名

館長＝高橋泰、副館長＝高橋あけみ、庶務係長＝高橋薫、学芸普及室長＝樋口智之、  
指導主事＝飯淵泉、学芸企画室主事・記録＝寺澤慎吾

5. 会長・副会長選出

会長を佐川委員、副会長を尾崎委員とする。

6. 議題及び報告並びに議事の要旨

(1) 会議録署名委員の選任

会長と森委員とする。

(2) 報告事項

① 当館における新型コロナウイルス感染症対策について(副館長報告)

「資料1」のとおり。

② 令和2年4月～6月の観覧者数について(庶務係長報告)

「資料2」のとおり。

③ 令和2年度の企画展について(学芸普及室長報告)

「資料3」のとおり。

〔委員からの意見等〕

企画展を含め事業にかかる予算が見当たらないがどのように提示しているか。

〔事務局からの回答〕

展覧会ごとに概要をこの会議ではかるが、その際に予算規模はお示ししている。予算規模としては当館所蔵品を中心とする企画展では500～600万円程度、特別展では2000万円前後である。今年度は特別展が企画されておらず、企画展のみとなっている。

〔委員長からの意見〕

昨年度の資料は事務局にあるはずなので、差し支えない範囲でお送りしてはどうか。特別展については実行委員会や協議会等で予算については報告されている。新委員には資料等で説明をしてもらえばよい。

④ 教育普及事業について(指導主事報告)

「資料4」のとおり。

⑤市史活用推進事業及び資料レスキューについて(学芸普及室長報告)

「資料 5」のとおり。

⑥各種機関との連携事業について(学芸普及室長報告)

「資料 6」のとおり。

⑦その他 大規模改修について(副館長報告)

口頭説明。

今年度、設計を行っており、来年度から令和 6 年 3 月末まで工事休館し、同 4 月に再オープンを予定している。現在工事の予算要求の準備をしている。工事内容は大きく分けて二つあり、一つは機能向上工事を含む長寿命化の工事で、照明の LED 化、防災・空調・配管関係の工事、トイレリニューアルのほか、機能向上分として、収蔵庫狭隘化改善のため、講習室を閉架書庫化し、講習室機能はギャラリーへ移すことなどがある。もう一つは展示リニューアルの工事で、企画展示室等の改修を予定しており、今年度設計中である。来年の秋から大規模改修工事と並行して同時に行う予定である。この工事では、企画展示室ケースのガラスをミュージアムガラスへ変更することやケース内照明の LED 化を行いたいと考えている。

〔委員からの意見等〕

⑦については簡単な資料でもあればよかった。

来年 3 月 11 日は東日本大震災から 10 年という特別な日にあたる。国絵図について、400 年前にもこれだけの範囲に津波が来たということ、色を変えるなどして示す展示があるとよい。

〔事務局からの回答〕

新しいご意見を頂き有難い。展示リニューアルの範囲は、テーマ展示室 I・II、企画展示室のみである。国絵図のある総合展示室のエリアは予定が無いものの、頂いたアイデアについては今後の参考にさせて頂きたい。

〔委員からの意見等〕

東日本大震災の津波の範囲は、福島県・宮城県・岩手県ということであるが、実は昔でいうと仙台領であったということを知ってもらえる機会となる。そういう意味でも広報をしていただきたい。

〔事務局より回答〕

ご意見を頂き有難い。

〔委員からの意見等〕

震災 10 年の展示は、もともとこの規模でやるという前提で、大規模な展示を行う考えはなかったのか。

〔事務局の回答〕

当初は、3.11 をまたぐ形で当館の名品展を企画していたが、予算要求の中で、それが難しいということになり、結果的には、震災 10 年と当館の開館 60 周年を冠とした名品展を 4 月に入ってから開催することを予定している。名品展の意図としては、震災以降に資料を寄贈して頂いたことへの感謝の気持ちと、来年から 2 年半の休館に入ってしまうため、その前に市民の方へ名品をお見せしたいということがあった。

〔委員からの意見等〕

名品展は企画展での開催か。

〔事務局の回答〕

その通りである。

### (3) 協議事項

① コロナ禍時代における当館運営の在り方について

〔事務局からの説明〕

各委員の先生方は多方面で活躍されているのでコロナ対策のアイデアとして、どのようなものがあるかお教え

頂きたい。

〔委員からの意見等〕

瑞鳳殿は資料館も併設しており、観光地となっていて全国および海外からも観光客が来る場所である。コロナ禍の中で、仙台市にならって全館休館をしていた。文化を守るため、収入が断たれた状態であっても環境を維持管理していかなければならない。現在の瑞鳳殿は、資料館も換気、消毒等をして開館している。ボランティアガイド等は無い状態で主に外を見て頂いている。宣伝については、テレビ番組やニュース、YouTube を多用するようにしているが、人が密集しないように工夫をしている。

〔委員からの意見等〕

博物館でのホームページの充実や教員向け研修の実施は有難い。また、職場体験学習の受け入れをしている、ということが有難い。

〔事務局から補足説明〕

職場体験については、数校から希望はあったものの、その後中止になった学校もあり、現在のところ 1 校のみ受け入れる予定である。

〔委員からの意見等〕

生徒たちは職場体験を楽しみにしている。体験が不可能であれば、ネットを利用して博物館の仕事や館内を紹介するなどの新しいスタイルでできないか。教育実習については、内容を削減して実施するなどしている。限られたなかでも、人と人とのつながりは大切にしていきたい。

〔委員からの意見等〕

東北大学は、前期はすべてオンライン授業となった。教員のオンライン授業のスキルは非常に上がっている。こちらで作り込んだ資料を事前に見ているためか、学生も理解が良い。博物館での講座は、オンラインでの配信ということも可能ではないか。解説付きの動画配信を行ってもらおうとよい。

〔委員からの意見等〕

博物館のホームページから動画や重要文化財に指定品の紹介の文章などを見た。ホームページの作品の解説は漢字が多く理解しにくい。もう少し丁寧で分かりやすい解説文の在り方もあるだろう。大人用だけでなく子ども用もやっていく必要がある。「おうちで楽しむ展覧会」も見どころなどがあり、懸命に取り組んでいることが分かった。収蔵品については、司馬江漢の衝立など、良いものが紹介されていないため、もったいない。また、画像は、もっとズームアップできるようにして欲しい。オンラインで資料の魅力を発信することには今後の可能性がある。

〔委員からの意見等〕

ホームページについて利用する立場からすれば、文字だけではなく、メリハリのある映像で色や大きさなど、変化のあるものがあれば、興味が湧くだろう。

来るのを待つのではなく、普段関心がない人でも開いてみたくなるような仕掛けを作れば、自分とのつながりをそれぞれ見つけてくれるのではないか。来館への仕掛け作りが大切だろう。

〔委員からの意見等〕

デジタル化は、アーカイブとして充実させていくという視点からも必要なことである。人と接点を持ちにくい環境のなかで、アットタイムな情報を提供するというところにデジタルの力を使っていくべきである。逆に、デジタルで接点をもちにくい方々には、人を限って熟覧をしてもらうのも一つの手ではないか。登録制、予約制などにすれば、人が限定される。実物を見ることでしか伝わらないことがある、ということを示し続けていく姿勢は大切で、そのような機会、特殊な見せ方が果敢な試みとしても捉えられる。そのような見せ方も、デジタル化と並行して考えればよいのではないか。

〔委員からの意見等〕

重要文化財に指定されるという伊達家文書・藩主の印章については、後援者向けに報告させていただいた。また武将隊の YouTube も面白く拝見した。仙台市議会臨時会では文化観光分野でのコロナ対策予算について

て議論するという事になっている。この中には、文化観光振興の予算としてイベント関係も入っており、屋外・屋内施設のイベントに対する予算も入っている。博物館関係についてはどうか。

〔事務局からの説明〕

感染症対策としてサーモグラフィの設置などが予定されている。

〔委員からの意見等〕

デジタルは、非常に重要なことではあるが、博物館はモノが大切である。モノはどうしてもデジタルでは伝わらないのであるが、伝わらなくなってしまっている人もいる。仙台市博物館には素晴らしいモノが沢山あるため、学芸員がセレクトして、期間や人数を限定して、熟覧をさせてあげたい。

〔委員長からの意見〕

館としてウェブ関係の環境への展望や、今回委員から挙げた具体的な意見などについての考えをいただきたい。また、県立美術館と東北歴史博物館については、こういう状況の中でも特別展を開催している。仙台市博物館では、福島美術館の企画展のほか、そのあとの企画展も早々に中止を決めているが、中止せずにやる方法もあったのではないかと。その点を説明いただきたい。

〔事務局からの回答〕

当館では、館蔵品中心の企画展と常設展と、海外等含む他所から資料を借りて全国巡回などして行う特別展があるが、もともと今年度の特別展の開催予定は無かった。企画展については、コロナのことがあり、常設展以上に規模を膨らませて多くのお客様に来ていただくのはどうか、という議論があった。そのため、適正規模を意識し、企画展のエッセンスを詰め込んだ特集展示という形で常設展の中でご覧頂くということにした。

委員の方々から頂戴したご意見について、本来実物を見せることが博物館の強みである、ということは理解している。それができない中、デジタルの力も借りながら、ホームページでの画像掲載や YouTube の動画配信などに取り組んでいる。アフターコロナの時代となることを踏まえれば、元通り戻すことは難しいと考えており、新しい博物館の在り方が必要になってくる。委員からご指摘があったように、実物の力は基本的なものとしてあり、そこへ市民を惹きつけるための仕掛けとしてデジタルを活用していきたいと考える。

〔委員長からの意見〕

今回委員からあった意見、指摘については事務局側で検討し、回答や意見などを取りまとめていただきたい。

②その他

なし

(4)その他

①その他

なし